

## 身体運動意味論

月本洋（東京電機大学工学部）

脳の非侵襲計測に基づくと、ある身体運動で活性化する神経回路とその身体運動をイメージ（想像）するときに活性化する神経回路は基本的に同じである。すなわち、想像は仮想的身体運動である、といえる。筆者は、このような事実に注目して、「言葉の意味とはその言葉によって惹き起こされる(仮想的)身体運動である」という身体運動意味論（Embodied semantics）を提示し、指示対象意味論（言葉の意味とはその指示対象である）、イメージ意味論（言葉の意味とはその心的イメージである）、用法意味論（言葉の意味とはその用法である）等の意味論を基本的に統合できることを示した。事故等で身体のある部位が失われた場合でも、その部位を動かす脳の神経回路網が破損していなければ、仮想的身体運動ができるので、想像ができ、身体運動意味論の意味には影響を及ぼさない。また、先天盲の場合でも、点字の触覚の入力が視覚野に行き処理されるので、想像もでき、言葉の意味も理解できる。身体運動意味論は、末梢神経の活動が言葉の意味を形成するということを主張する。これは、記号処理が得意な認知主義と、身体運動が得意な行動主義を統合しているとみなせ、認知主義や行動主義のように人間の心の一側面を扱うのではなく、心の全体を扱える枠組みを提示しているといえる。認知意味論は、メタファー等の抽象的な表現の説明は得意であるが、具体的な存在物の説明には不得意である。身体運動意味論では、上述したように、イメージと知覚像は、脳神経回路的には基本的に同一なので、具体的な存在物の表現の理解と抽象的な表現の理解を同一に扱え、認知意味論の問題点を解決することができる。抽象的な言葉の場合は、現実的な物理世界に対応物がないので、われわれは（仮想的）身体運動ができない。抽象的な言葉は、一般的に比喩（メタファー）を通して、基本領域の仮想的身体運動を流用している。メタファーは、基本領域(起点領域)から応用領域（目標領域）への投射とし表現されるが、これを神経回路的に表現すれば、メタファーとは、応用領域が基本領域の記号内容（イメージ）を流用(共有)することとなる。筆者は、身体運動意味論に基づく実験をfMRIを用いて開始した。今後、まとまった実験結果が得られれば報告したい。